

## あいであ &amp; アイデア

## 子牛の防寒対策で発育向上 ～安価で衛生的な木枠式子牛ベット～

大分県 白根 英治

### 子牛のベットの必要性

大分県の久住高原・飯田高原などの冬季の寒さが厳しい地域では、哺乳期の子牛は、被毛が薄く皮下脂肪が少ないことから、体温の調節がうまくできず体調を崩しやすくなり、下痢や肺炎などの疾病が発生しがちです。

哺乳期の疾病は、治療の手間がかかるだけでなく、その後の子牛の成長にも大きく影響を及ぼし生産者の悩みの種となっています。

子牛の体温調整を図るには、カウハッチなどの小屋を用意し、乾いた敷料を用いて保温を行い、赤外線ヒーターや投光器を用いて、体温の低下を防ぎ、腹を冷やさないようにする必要があります。

今回は、睡眠や休息をとる「寝床」に注目し、子牛にとって居心地の良い環境作りを目指すために木枠式子牛ベットを紹介します。

### ポイントは低コストと普及性

なるべく農家の負担にならないように「安価な材料」で、より普及しやすいように「容易に手に入る材料」を心がけました。

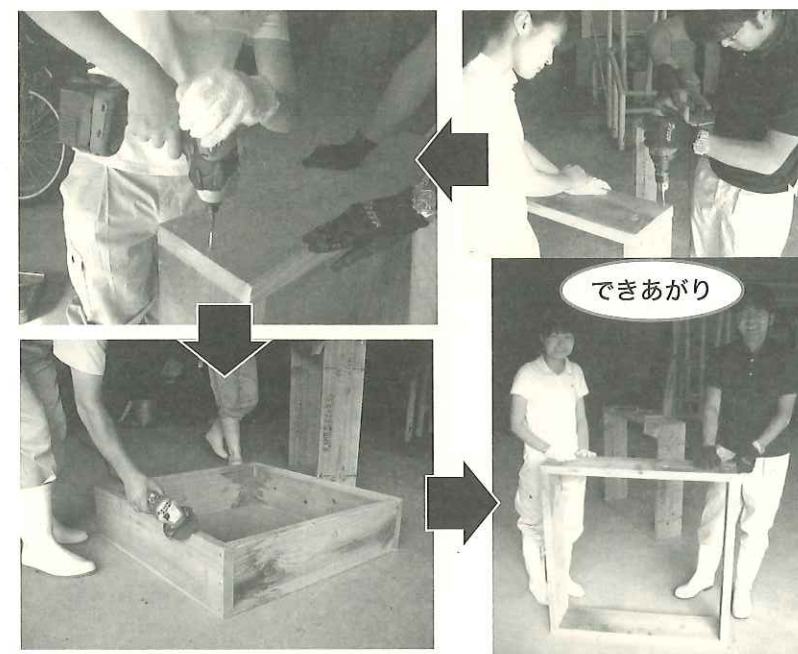
子牛用ベットの木枠は、内回り100cm、深さ25cmほどです。普段の飼育場所に設置して、



清潔で居心地の良いベットが完成

(材料)

・木板 長さ100cm 幅25cm 厚さ3cm @1,000円  
・ネジ釘 7.5cm @10円



(図1) 作業工程：日曜大工で簡単製作

おがくず等を入れれば、ふかふか寝床の出来上がりです。木枠で囲われていることで敷料が散らばることなく、保温効果を期待できる仕組みです。

### 材料と製作

木枠の材料及び製作工程を図1に示します。1個当たりの材料費は1000円程度、必要な道具もノコギリ、金槌、ネジ釘、メジャーとごく一般的なものでできました。

### 設置の効果

ベット上と床下の表面温度を比較すると、最大9℃から4℃ほどベット上が高く、一定の保温効果が確認されました。

また、このサイズの場合、かなり大きく育っても牛が座ることができました。さらに、赤外線投射を加えると効果が高いことも判りました。おがくず以外に乾いた牧草やワラでも有効でした。

使用農家の感想として、「シンプルかつ丈夫なので枠が安定し、壊れる心配がない」。「枠を持ち上げることで簡単に敷料を総入れ替えできる」といったご意見を伺えました。

また、底がないので尿等がベットを通過することから乾燥した状態を保つことができ、普段の掃除は汚れた部分の敷料を補充するのみで、全部取り替えるのには10日に1度の間隔となりました。このため、おがくずの使用量が40%削減されたという効果もありました。

今後、それぞれの農家の工夫も加えながら、さらに普及することを期待しています。

(筆者：大分県庁農林水産部森との共生推進室森林環境保護班 主幹)

## あいであ &amp; アイデア